

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

世界にも目を向けて



皆様、新年あけましておめでとうございます。
当財団は、昭和50年9月に設立して以来、昨年をもって30周年を迎えることができました。

これもひとえに、全国の研究者の皆様、国・地方自治体の皆様、教育関係者の皆様、市民団体の皆様他のご支援のたまものです。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、本年3月には、メキシコにて「第4回世界水フォーラム」が開催されます。去る2003年3月に日本で開催された前回の「世界水フォーラム」では、当財団が主要業務の一つである河川環境学習活動の一環として「第1回世界子ども水フォーラム」の事務局を担当致しました。

このたびのメキシコ大会におきましても、引き続き当財団が事務局となり「第2回世界子ども水フォーラム」に日本の子ども達を派遣し、日本の子ども達から世界にメッセージを発信するとともに、世界の子ども達の水に関する活動情報を収集していただくこととしております。

また、当財団は、従前より世界の河川環境保全・改善施策等に関する情報の収集にも努めていま

すが、昨年はアメリカ、イギリス、ドイツ、ハンガリー等に調査団を派遣し、湖沼管理状況調査、汽水域状況調査、水質汚濁対策調査、河川管理手法調査などを実施いたしました。

さらに、河川整備基金の「基金事業」として毎年実施している海外水害緊急調査でも、(社)土木学会と連携し、昨年8月にアメリカ合衆国を襲ったハリケーン・カトリーナ被害調査を現在実施しています。

上記「世界子ども水フォーラム」や、各種海外調査で得た情報・施策等につきましては、是非様々なところで役立てて頂けるよう、報告会・発表会などにより広く情報発信して参ります。今後とも世界にも目を向け、世界の水や河川環境に関する最新の様々な情報も集めながら国内に向けた取り組みを行ってまいります。

どうぞこの一年もよろしくお願いたします。

(財)河川環境管理財団
理事長 鈴木藤一郎

ニュースの項目

【お知らせ】

- ・第2回世界子ども水フォーラム
～開催情報と国内勉強会報告～ P 2
- ・第25回川の写真コンクール
～表彰式及び展示会の開催～ P 2
- ・河川環境総合研究所報告～第1号を発行～ P 2
- ・環境百科久慈川を発刊 P 3
- ・川の民話集 発行のご案内 P 3

【調査研究・勉強会】

- ・平成17年国内で発生した甚大な水害等の緊急調査 P 4
- ・H17年度海外水害緊急調査 P 4
- ・緊急時水循環機能障害リスク検討委員会 P 4
- ・湖沼水質のための流域対策検討会(仮称) P 5
- ・都市水路計画策定モデル地区での検討が始まる P 5

- ・河川技術研修会 P 5
- ・河川に関する勉強会 P 6
- ・河川塾 P 6

【報告事項1 河川環境教育】

- ・水のエッセイコンテスト(結果報告) P 6
- ・平成17年度「子どもの水辺」
長崎県連絡会議が開催されました P 6
- ・プロジェクトWETファシリテーター講習会(開催報告) P 7
- ・北海道『子どもの水辺』再発見プロジェクトワークショップ2005(開催報告) P 7
- ・遠賀川流域高校生等活動交流会(開催報告) P 8
- ・「川の指導者養成講習会 i 筑後川」
(開催報告) P 8

【報告事項2 河川整備基金・河川美化緑化事業】

- ・河川整備基金助成事業成果発表会(開催報告) P 8
 - ・河川整備基金・基金事業成果発表会(開催報告)
～河川における生態系と水質の相互的な関係に関する研究～ P 9
 - ・河川整備基金・基金事業成果発表会(関西地方の開催報告)～流水・土砂管理と河川環境の保全・復元に関する研究～ P 9
 - ・平成17年度第2回河川整備基金運営審議会(開催報告) P 10
 - ・平成17年度 河川美化・緑化事業新規助成の調査研究選定される P 10
- #### 【報告事項3 催しもの他】
- ・河川環境展2005(開催報告) P 10
 - ・網走湖フォーラム2005(開催報告) P 11
 - ・韓国の河川再生事業にふれて P 11

【お知らせ】

第2回世界子ども水フォーラム

～開催情報と国内勉強会報告～



発表資料作成の様子



グループによるプレゼンテーション

1) 第2回世界子ども水フォーラムの概要

「第4回世界水フォーラム（2006年3月メキシコシティにて開催予定）」の一環とし「第2回世界子ども水フォーラム（CWWF2）」が開催される予定です。以下に概要をお知らせします。（前は京都・大阪・滋賀で開催されました。）

- 【名称】 第2回世界子ども水フォーラム
- 【開催日】 平成18年3月16日（木）～3月22日（水）
- 【場所】 メキシコシティ：メキシコオリンピックセンター
- 【主催】 I M T A（メキシコ：水技術研究所）
（UNICEF、日本水フォーラム、プロジェクトMETインターナショナルなどが協力）
- 【参加者】 世界5 Region（アジア・オセアニア、ヨーロッパ、中近東、アフリカ、南北アメリカ）から、1地域20名以内（最大100名以内）の子どもが参加

【大会全体のテーマ】 "Local Actions for a Global Challenge"

【概要】

- 子ども特別セッション：世界各国のLocal Actionsの発表（最大25件）
- メジャーセッション：
 - ・ の内、優れた5つのLocal Actionsを発表
 - ・ 子ども達による関係へのメッセージ「子ども水宣言」の作成
 - 地球水教育村での学習プログラム展示 & 体験

2) CWWF 2 に向けた国内勉強会の実施報告

昨年9月に東京都内で開催された「世界子ども水フォーラムフォローアップ東京」大会参加者（53名）から選考された派遣候補者17名が、現在CWWF 2の参加に向けて勉強会を開催しています。

勉強会では、候補者が4グループに分かれそれぞれ4つのテーマ（水と災害、水と自然環境、水と歴史・文化、水に関するネットワーク）について自分たちの活動をまとめ、CWWF 2での発表資料の作成、プレゼン練習を行っています。

最終的には、17名の中から5名程度が選考され、メキシコに派遣される予定です。

【メキシコに向けた勉強会 概要】

- 第1回勉強会（11月20～21日） 於：（財）河川環境管理財団
参加者：中学高校生17名
勉強会内容：各自の活動の発表とグルーピング、テーマの決定
- 第2回勉強会（1月6～8日） 於：（財）河川環境管理財団
参加者：中学高校生13名
勉強会内容：4課題のプレゼン資料の作成とプレゼン練習（日本語）

今後も引き続き勉強会を行い、発表資料の英訳及び英語でのプレゼンテーションの特訓等を行っていく予定です。（担当：子どもの水辺サポートセンター）

第25回川の写真コンクール

～表彰式及び展示会の開催～

川の写真コンクールは、河川愛護の思想を広く持って頂くため、関東地方整備局と当財団が、河川愛護月間行事の一環として行っているものです。

次世代を担う関東地方の小中高校生を対象として、また、今回25周年を記念して一般の方からも、川に関わる写真を広く募集したところ、応募総数6,823点と沢山の方からの応募がありました。

表彰式は、昨年11月20日に大手町サンスカイルームに於いて実施し、小中高校生の部門別入賞者（金賞各1名、銀賞各3名、銅賞各5名）と学校賞10校および一般の部入賞者（優秀賞1名、佳作5名）を表彰しました。

入賞作品展示会は、昨年1月にJR東京駅北口ドーム、12月に千葉県手賀沼親水広場、本年1月16日～23日に神奈川県相模三川公園パークセンターに於いて行いました。今後も次のとおり行う予定です。

- 1月28日（土）～2月19日（日）さいたま川の博物館
- 3月12日（日）～3月21日（火）霞ヶ浦ふれあいランド

（担当：企画調整部）



小学生の部表彰式



JR東京駅北口ドームでの展示会

河川環境総合研究所報告

～第11号を発行～

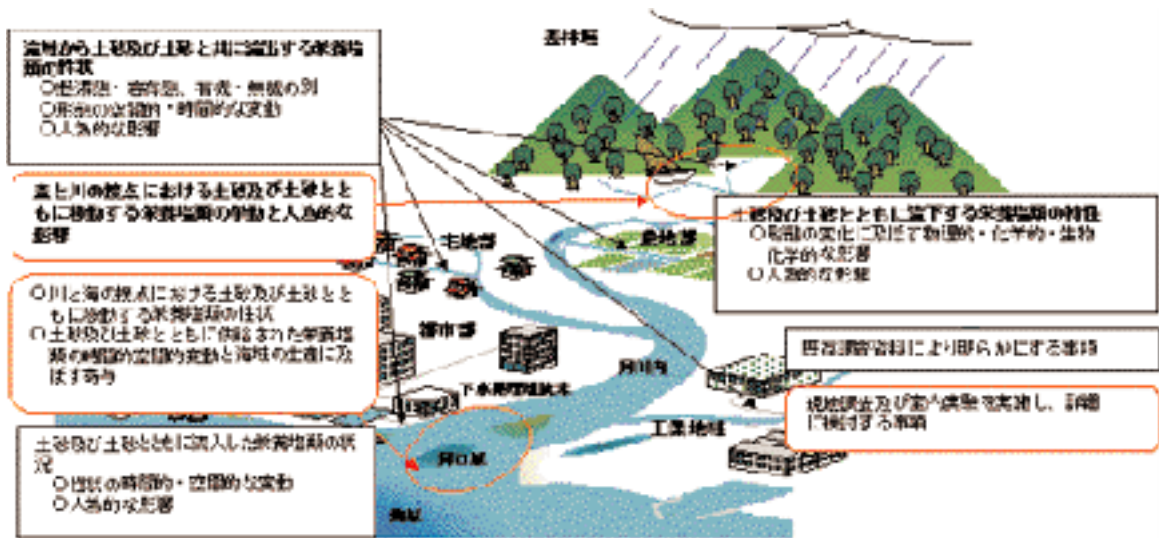
平成17年度「河川環境総合研究所報告第11号」を発行しました。本報告は、当財団での自主研究もしくは受託業務として実施した調査研究成果や得られた技術について、広く活用が期待される成果をとりまとめ、河川環境総合研究所報告として作成して、関係機関に配布しているものです。

本報告に掲載されている調査研究成果の課題名は以下のとおりです。本研究成果が関係の方々へ活用され、また現場の第一線における河川環境への取り組みに資することができれば幸いです。

平成 16年台風 18号による石狩川河道内の風倒木に関する調査
 河川を軸とした土砂及び栄養塩類の動態に関する研究
 流量変動の変化が沖積河川生態系に及ぼす影響
 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急対策工法の検討及びモニタリングとその評価
 イネ科花粉対策を考慮した堤防植生管理の研究
 河川環境教育の活性化のための支援方策検討

河川環境学習に関する取り組み（子どもの水辺再発見プロジェクト）の推進方策に関する研究

本報告は当財団のホームページにPDFファイルで掲載しています。なお、報告書を必要する方は研究第1部までご連絡下さい。
 （担当：研究第1部）



河川を軸とした土砂及び栄養塩類の動態に関する研究のイメージ

環境百科久慈川を発刊



「環境百科久慈川」は、久慈川の姿としての自然・歴史・文化等を紹介し、久慈川の社会環境や自然環境について地域の人々に深く理解してもらうため、河川管理者および有識者で構成する編集会議（事務局：河川環境管理財団）において冊子にとりまとめたものです。冊子は、平成 17年 9月に発刊され、流域の小中学校の他、公共施設に配布しました。

今後、久慈川の河川整備基本方針および河川整備計画が策定される予定ですが、流域の方々に久慈川の姿を知っていただく際の一助となれば幸いです。

また、現在那珂川においても編集会議を立ち上げ「環境百科那珂川」を編集中です。

（担当：研究第3部）

川の民話集 発行のご案内

昔の人々は、飲み水や田畑に使う水など生活に欠かせない水を川から直接、いろいろな工夫をして使っていました。さらに、川からは魚をはじめとする食べ物の恵みを受けて感謝する一方で、洪水により家や田畑が流されたり、日照りなどによる被害が起きないように、恐れを抱いて生活していました。

民話集の内容

（財）河川環境管理財団が昭和 5年から発行している小学生向けの小冊子「川の本」に掲載された日本の各地に伝わる川にまつわる民話 3話を紹介します。

民話集を読んで

- ・川と共に暮らしてきた人々の思いや姿を思い浮かべて下さい。
- ・そして、川を大切にしようという気持ちを持って下さい。
- ・川の学習や川や水辺での活動のきっかけにして下さい。

川の民話集は、B5版 本文 132ページ

単価 1,300円（税込み）です。

ご注文の方法

TEL 03 5847 8302（企画調整部）

FAX 03 5847 8308

又は info@kassen.or.jp にご一報下さい。

（担当：企画調整部）

【調査研究・勉強会】

H17年度国内で発生した甚大な水害の緊急調査

河川整備基金の調査・試験・研究部門の一般的助成事業の対象として「国内で発生した甚大な水害の緊急調査」があります。

15年度までは、この制度の活用実績はありませんでしたが、16,17年度と水害が多発し（北陸豪雨災害等）、当該助成制度が有効に活用されています。

平成17年度も台風14号により西日本を中心に多くの被害が発生し、国の管理する河川でも2河川で氾濫の恐れのある危険水位を超過し、内13河川では計画高水位を超過しました。そして多くの箇所において堤防からの越水が生じたり、大規模な内水氾濫や土砂災害も多発して多くの被害が発生しました。平成17年は、このような災害等に対し、下表の3件の緊急調査が実施されています。（担当：研究第1部整備基金班）

No.	事業名	申請者・専攻科目・所属	採択額 (千円)	調査概要
1	平成17年9月関東地方大雨による市街地浸水災害調査と防災対策研究	石崎 勝義 水文学 (社)雨水貯留浸透技術協会 東京市街地浸水調査団 団長 早稲田大学教授	1,800	平成17年9月4日から5日にかけて東京都中野区・杉並区等で発生した大雨による浸水被害はこれまでの都市水害とは異なる特徴を有しているため、緊急に調査を行い、今後の河川改修の方向を考える上で役立つ資料を収集・整理する。
2	平成17年台風14号の記録的豪雨による災害の調査と減災対策に関する研究	杉尾 哲 河川工学 (社)土木学会 台風14号災害 緊急調査団 団長 宮崎大学工学部教授	1,000	平成17年の台風14号によって発生した9月4日～6日の記録的豪雨による甚大な水害・土砂災害について、宮崎・鹿児島・大分の3県で水文資料・被害状況・避難状況などの調査を行い、災害の発生原因と発生機構の解明および今後の減災対策について検討する。
3	平成17年台風14号による豪雨で発生した九州地方の土砂災害に関する調査研究	下川 祝剛 砂防学 (社)砂防学会調査団 団長 鹿児島大学農学部 教授	1,600	平成17年9月上旬に九州地方を襲った台風14号に伴う記録的豪雨により宮崎県を中心に22名の人的被害を伴う甚大な被害を生じた。(社)砂防学会では、この豪雨で生じた斜面崩壊や土石流等、土砂災害を引き起こした実態と災害規模を把握し、豪雨時に発生する土砂災害の減災対策に向けての基礎的な資料とする。
3 件			5,000	

H17年度海外水害緊急調査



流された家屋・家具等

(財)河川環境管理財団では、海外で洪水等により甚大な被害が発生した場合、今後のわが国の川づくりや河川管理等の推進に資することを目的として、河川整備基金の基金事業として、緊急的な水害調査を実施しています。

調査は、毎年度(社)土木学会に委託して(社)土木学会が主体的に実施しています。

平成17年度は、8月末にアメリカ合衆国メキシコ湾岸に襲ったハリケーン・カトリーナ災害調査を実施しています。

本災害の特徴は、ハリケーンの外力規模が海岸、湖岸及び運河沿いの堤防の計画外力を遙かに上回るものであったこと、堤防の破壊が被害を著しく大きくしたことであると考えられており、これらの被災原因等を詳しく調査することは、今後のわが国における防災体制の確立に極めて重要なものになると考えられます。以下に調査の概要を記します。

1) 調査団・調査時期

河川調査班（土木学会水工学委員会を中心に構成）
：団長 河原能久広島大学教授
平成18年2月下旬の予定

海岸調査班（土木学会海岸工学委員会を中心に構成）
：団長 柴山知也横国大教授
平成17年11月27日～12月4日に実施

2) 現地の被災状況について

高潮 7～8m
(ポンチャートレーン湖の特殊堤の高さ：約5m)

浸水状況 市の約80%、16万戸
(ニューオリンズ市当局者による)

堤防の被害状況 湖岸堤防及び運河の特殊堤など1箇所で破堤

死者数 約1100人(9月27日現在)

被害総額 200億ドル(22兆円)(政府・民間の試算)

(担当：研究第1部整備基金班)

緊急時水循環機能障害 リスク検討委員会

平成16年に発生した新潟県中越地震等の自然災害では、上下水道をはじめとする水循環システムが被災し、その機能障害に起因して、飲料水の確保やトイレ問題等市民生活に大きな被害が発生しました。将来起こるとされる南海・東南海・東海或いは首都直下型地震等の自然災害においては、より深刻な被害の発生が懸念されています。また、河川上流側の

下水処理場の機能が停止すると、未処理の汚水が河川に流出することにより下流側の水道の機能に影響を及ぼすなど、水質事故についても水循環システムを通じて流域に大きな被害をもたらす可能性があります。

このような状況を踏まえ、学識経験者等からなる「緊急時水循環機能障害リスク検討委員会」（委員長 大垣眞一郎・東京大学大学院教授）が設置されました。本委員会では、自然災害または水質事故に起因し、上下水道等の水循環システムの機能に重大な障害が発生した場合に、下水道、水資源、河川行政を所管する国土交通省と水道行政を所管する厚生労働省が協力して、公衆衛生や市民生活等に及ぼす影響リスクを分析・評価し、あわせてその影響を軽減するための対策について検討を行うものです。

（担当：研究第2部）

湖沼水質のための 流域対策検討会（仮称）

～省庁が連携して、湖沼の水質保全のための
面源負荷対策に関する検討始まる～

平成17年6月、公共用水域のさらなる水質改善に向け、湖沼水質保全特別措置法（通称：湖沼法）改正案が成立しました。改正湖沼法では、湖沼の水質の保全を図るため、市街地や農地等からの汚濁物質が水域へと流れ出す非特定汚染源汚濁負荷対策の強化、湖辺の水環境の適正な保全等のための措置を講じることとされており、湖沼の水質保全を図るために関係する行政機関が連携して面源負荷対策の更なる充実を図ることが求められています。

こうした状況を踏まえ、学識経験者等からなる「湖沼水質のための流域対策検討会」（委員長 福島武彦・筑波大学大学院教授）が設置されました。本検討会では、国土交通省、農林水産省、林野庁が連携して湖沼の水質保全を図るために、森林、市街地、農地などの面源負荷に関する調査分析を行うとともに、面源負荷の削減対策に関する検討を行うものです。

（担当：研究第2部）

都市水路計画策定モデル地区での 検討始まる

まちづくりと一体となって都市の水路を保全、再生、創出するために、最も関係の深い河川と下水道を中心に、都市における水路のもつ役割を再評価し、保全、再生、創出するための方策について検討が行われ、都市の水路の保全、再生、創出に向けた提言「懐かしい未来へ～都市をうるおす水のみち～」が平成17年2月とりまとめられました。

国土交通省河川局及び都市・地域整備局下水道部

では、積極的な地域の取り組みを支援する過程で、都市水路の整備を進めていくうえでの諸課題の解決方策を共に検討するため、都市水路計画策定モデル地域の公募を実施し、7地域（神奈川県厚木市、滋賀県大津市、福岡県北九州市、兵庫県神戸市、大阪府堺市、千葉県船橋市、神奈川県横浜市）を都市水路計画策定モデル地域として決定しました。

今後、各モデル地域において調査・検討を実施し、平成18年2月28日に、各モデル地域での取り組み、成果及び明らかになった諸課題についての報告会が開催される予定です。（担当：研究第2部）

河川技術研修会

1. 主旨

本研修会は、地方自治体、地方整備局の技術職員の育成を目的に、地域に応じたテーマ（防災・河川環境・河川管理等）により地方ごとに開催し、河川環境に関する課題の解決、今後の災害時における危機管理、河川管理等の業務に必要な実務的な知識を得る事を目的に開催する事としています。

研修会は、受講者参加型（分科会による討論会とパネルディスカッション）を基本とし参加者が、その地方の地域性を持ち寄って討議を行う形で構成することとしています。

なお、この事業は、河川整備基金の基金事業の河川整備推進啓発事業の一環として、(社)日本河川協会に委託し、平成17年度から新たに実施しているものです。

2. 開催状況（17年度）

- 1) 近畿地方：11/1～2 大阪市において開催、テーマは「防災」
- 2) 東北地方：仙台市において開催予定、テーマは「河川管理」
- 3) 九州地方：福岡市において開催予定、テーマは調整中

3. 近畿河川技術研修会の概要

- (1) 研修日時：平成17年11月 1日（火）～2日（水）
- (2) 開催場所：ドーンセンター（大阪府大阪市中央区大手前）
- (3) 研修のテーマ：防災（平成16年に近畿地方は大規模な洪水災害を受けたためテーマ決定）

4. プログラム

第1日目（参加者 研修生：170名、その他：200名）

専門家による講義
行政関係者と学識経験者との対談「避難情報・ハザードマップ」
識者、行政関係者によるパネルディスカッション
「昨年の豪雨災害を振り返って」

第2日目（参加者 研修生：170名、その他：100名）

研修生（市町村、府県、国土交通省の職員）を対象とした分科会
特別講演：帝京大学志方教授「危機管理の要訣」
参加者によるパネルディスカッション「明日の水防災を考える」

5. 研修参加者（総勢約410名）

- 1) 研修生：分科会参加者：国土交通省、府県、市町村等の職員 約170名
- 2) 聴講者：一般参加者：防災エキスパート、建設コンサルタンツ協会会員、国・府県・市町村の職員等 約180名
- 3) 関係者：講師・講演者・ファシリテーター・スタッフ等 約60名

（担当：研究第1部整備基金班、大阪研究所）

河川に関する勉強会開催

平成17年9月30日（金）山本晃一河川環境総合研究所長をお迎えし、北海道事務所では初めてとなる「河川に関する勉強会」を開催しました。

勉強会には、北海道開発局各開発建設部、北海道、そしてコンサルタント会社などから120名が参加し熱心に聞き入っていました。

前段に、「河川伝統工法導入の手引き」と題し、先ごろ発刊された河川伝統工法導入の手引きの考え方や内容を北海道事務所業務課係長小本智幸が発表。つづいて山本所長から「河道・環境の維持管理と情報」と題して、維持管理を行っていく上での情報のあり方、体系化や編集方法についての講演が行われました。

質疑応答では活発な意見が出され、また勉強会終了後も「素晴らしい勉強会だった」などの意見が多数あって、関係者の意見も伺い来年度以降も続けていく予定です。（担当：北海道事務所）



審査員、入賞者、引率者の皆さん

語育研究連合会推奨)」を発刊しています。

6月20日～9月20日の募集期間中の応募校数・応募総数は229校、10,017名となり、前回とほぼ同程度でした。地域別に見ると九州地区の応募が約44%と多かったのが特徴でした。

10月24日（月）に開かれた審査会により、團伊玖磨記念賞以下16編の入賞が決定し、11月20日（日）午後1時から、羽田空港ビッグバード・ギャラクシーホールにおいて表彰式が行われました。

團伊玖磨記念賞を受賞した慶應義塾女子高等学校3年の田中舞さんのエッセイ「雪解点」は、かわいがっていたネコの死と雪解けについて書いたもので、感受性豊かな内容、かつ、しっかりした構成になっていると、審査員の先生方も非常に絶賛しておりました。

その他、最優秀賞5名、優秀賞10名の高校生が受賞されました。

全国の高校生の皆さん、次回は是非応募してみてください。（担当：研究第1部）

河川塾を開催



赤川と現地実習の状況（平成17年11月）

平成17年4月に開設した河川塾（塾長：河川環境総合研究所長 山本晃一）は、塾生15名で開始し、これまでに23回開催しました。また、通常のゼミ形式に加えて、それまで河川塾で習得した沖積河川の構造特性と動態について現場踏査し、照査、検証を行い、技術研鑽を図ることを目的として、平成17年11月には赤川（山形県鶴岡市ほか）にて現地実習を行いました。（担当：研究第3部）

【報告事項1 河川環境教育】

第13回水のエッセイコンテスト （結果報告）

次世代を担う高校生に「水がもたらす恵みの大きさ、水の大切さを考えてもらい、水に対して深い思いを持ち続けてほしい」との願いから平成5年に始まった「水のエッセイコンテスト」は、全国高等学校国語教育研究連合会のご協力のもと、今年で13回目を迎えました。

当財団では、当コンテストの運営を行うとともに、コンテストの参考図書「私たちと水（全国高等学校国

平成17年度「子どもの水辺」

～長崎県連絡会議が開催されました～

平成15年に開催された「子どもの水辺」九州ブロック連絡会議を受け、長崎県では県内の連絡会議が平成15年度以降毎年開催されています。

今年で第3回目となる連絡会議が、さる平成17年11月26日、県の教育部局・河川部局・環境部局と国土交通省長崎河川国道事務所の主催により開催されました。

この連絡会議には、県内の「子どもの水辺」協議会に属する各団体・学校等53名の方々が集まり、「子どもの水辺」での活動事例、各団体の取り組み、県からのサポート事例等が紹介されました。

各都道府県でも様々な取り組みをされていますが、特に長崎県では定期的な連絡会の開催や、県内の河川に関わる各団体のネットワーク化の推進等の取り組みを行っており、県が主体となっている活動の好事例となっております。

連絡会議概要

日時：平成17年11月26日（土） 13:00～16:40



場 所：(財)長崎県建設技術研究センター
 参加人数：53名(市民団体14団体22名、県土木・教育・環境
 部局2名、国5名、その他5名)
 主 催：長崎県土木部河川課(事務局)、
 県教育庁生涯学習課、県県民生活環境部環境政策課、
 国土交通省長崎河川国道事務所
 (参考)第2回長崎県連絡会議の概要は下記ホームページをご覧ください。
<http://www.keikaku.gol.com/mizube/69/info/>
 (第3回長崎県連絡会議の概要も近々掲載する予定です)
 (担当：子どもの水辺サポートセンター)

第4回プロジェクトWET ファシリテーター講習会 (開催報告)



グループによるアクティビティ実演

昨年12月3日(土)～4日(日)の2泊間にわたり、当財団においてプロジェクトWETのファシリテーター講習会を開催しました。全国各地から15名の方々が参加し、講習会を通じてファシリテーター(エドゥケーターを養成し、プロジェクトWETの普及を図る人)の資格を取得されました。

参加者は、既にエドゥケーター(子供たちを直接指導する人)として活動されている方々なので、普段のプロジェクトWETのアクティビティのやり方について参加者数人に実演してもらいました。その結果、同じアクティビティでも様々な実施方法があり、教育効果を高めるために色々な工夫をされていることが分かりました。

また、普段から環境教育の現場に立っている方々や水に関する豊富な知識をお持ちの方々が多いため、参加者がグループに分かれ自分たちで選んだアクティビティを実演し合う"ピア・ティーチング"においては、様々なアイデアや手法を盛り込んだ効果的な実演がみられました。

この講習会をもって、日本でのファシリテーター総数は87名となりました。ファシリテーターの方々

の熱心な活動により、今後、更に多くのプロジェクトWETエドゥケーター講習会が全国各地で開催されることを期待されます。お近くで講習会が開催されることがあれば是非ご参加下さい。

プロジェクトWETの概要、講習会情報等はこちらをご覧ください。

<http://www.kasen.or.jp/wet/>

(担当：研究第1部)

北海道「子どもの水辺」再発見 プロジェクトワークショップ2005 (開催報告)

北海道「子どもの水辺」全道交流実行委員会の主催により、昨年12月に『北海道「子どもの水辺」再発見プロジェクトワークショップ2005』が開催されました。

このワークショップは、北海道地域の「子どもの水辺」等における河川体験活動をより一層推進することを目的として、北海道地域の「子どもの水辺協議会」関係者、「子どもの水辺北海道地域拠点センター(呼称：北海道エールセンター)」、行政関係者等が交流し、活動事例の紹介や意見交換会が行われました。

ワークショップに参加した人々から、これを機に北海道地域全32箇所(H17.12末現在)の「子どもの水辺協議会」が「北海道エールセンター」を中心に連携し、情報交換等を行っていききたいという意見が出されました。

<開催概要>

日 時：平成17年12月10日(土)～11日(日)の2日間

場 所：北海道エールセンター

参加人数：4名(子どもの水辺(水辺の楽校)1箇所16名、市民団体等6名、国土交通省5名、北海道庁土木&教育3名、帯広市名、その他14名)

主 催：北海道「子どもの水辺」交流会実行委員会

(担当：子どもの水辺サポートセンター)



ワークショップの様子

活動事例紹介の様子



遠賀川流域高校生等活動交流会 (開催報告)



交流会参加者の皆さん



活動の発表

昨年12月23,24日、遠賀川流域で活動する高校生達が、福岡県直方市の遠賀川水辺館に集まり、活動についての発表と意見交換を行う交流会が開催されました。

この交流会には、遠賀川流域の高校生だけではなく、遠く北海道や神奈川県の高中生も参加して発表や活発な意見交換が行われました。

主催は遠賀川水辺館で活動している高校生の代表、国土交通省遠賀川河川事務所、学識経験者、河川環境モニター、市民団体が構成する実行委員会。交流会の企画は高校生達が担当し、遠賀川河川事務所、当財団、大学生、市民団体が運営をサポートしました。

交流会の第一日目には、参加した高校生が自分たちの活動事例を発表し、意見交換を行いました。第二日目には、遠賀川水辺館のそばを流れる遠賀川に入っの河川生物調査や冬鳥の観察、流域の鉱物調査とアンモナイトの化石のレプリカづくりなどの体験活動を行いました。

参加した高校生達からは「自分たちの地域外の活動に新鮮な感動があった」「高校生同志の大きなネットワークを作っていきたい」などの意見が出ました。

当財団としては、これからも各地の河川で活動している高校生達のネットワークづくりを支援していきたいと考えています。(担当：研究第1部)

川の指導者養成講習会 in 筑後川 (開催報告)

昨年12月16~18日の三日間にわたり、大分県日田市の三隈川交流センター「朝霧の館」で「川の指導者養成講習会 in 筑後川」を開催しました。この講習会には筑後川流域の市民団体関係者2名、行政職員9名の合計36名が参加しました。

九州地域では平成14年開催の熊本緑川から始まり、今回が7回目の講習会となりましたが、12月という冬の開催は初めて、しかも二、三日目はこの冬一番の大寒波が襲い、粉雪の舞う中、受講生はEポートを体



雪の中のEポート体験

験することとなりました。

今回の講習会は、地元の市民団体(久留米「川辺りの会」)の方たちによる「Black Theater(暗幕の中の紙芝居:水や命について考えさせられるものでした)」や、筑後川河川事務所日田出張所の職員の方による地域住民との連携についてのプレゼンテーションなど、見て聞いて感動するものが多く、寒さの中でもとても熱い三日間でした。

(担当：研究第1部)

【報告事項2 河川整備基金・河川美化緑化事業】

河川整備基金助成事業成果発表会 (開催報告)

昨年の10月27~28日の2日間、千代田区平河町の砂防会館に於いて、第12回河川整備基金助成事業成果発表会が開催されました。

今回の発表会は、平成15~16年度の助成事業の中から、優れた成果を対象として行ったもので、その内容は以下のとおりです。

- 調査・試験・研究部門では、
- ・「川の生態環境に関する調査・研究」4件
(座長：浅枝隆埼玉大教授)
 - ・「防災・危機管理・市民連携など川と地域社会の係わりに関する調査・研究」4件(座長：中川一京大教授)
 - ・「水環境に関する調査・研究」4件(座長：古米弘明東大教授)
 - ・「指定課題助成研究」1件
(座長：山本晃一河川環境総合研究所長)
- 計13件の成果発表と討論が行われました。

国民的啓発運動部門では、パネルディスカッション方式で8件の成果発表と意見交換(座長：山本雅史子ども水辺サポートセンター長)が行われました。また、海外緊急水害調査として「スマトラ沖地震津波被害スリランカ国緊急調査報告」も行われました。

発表会には2日間で延べ310人の参加者があり、質疑も含めて活発な意見交換が行われました。この発表会の記録は、当財団発行の「第12回河川整備基金助成事業成果発表会報告書」にまとめ、広く周知を行うとともに、その概要を「河川整備基金便り2006年冬号(当財団HPにも掲載予定)」でお知らせする予定です。

(担当：研究第1部)

平成17年度第2回河川整備基金 運営審議会(開催報告)

(財)河川環境管理財団では、河川整備基金について、河川整備基金運営審議会(会長:丹保憲仁 放送大学学長)を年2回開催し、広く識者のご意見を踏まえながら運営することとしてしています。

このたび、平成17年度第2回河川整備基金運営審議会が開催され、18年度の河川整備基金助成事業「助成の基準」についての審議などが行われましたので、その結果について報告します。

- 開催日時:平成17年11月18日(金)10:00~12:20
- 場所:(財)河川環境管理財団 東京都中央区日本橋小伝馬町
- 出席委員:(敬称略、順不同)
(本人出席委員)
会長 丹保憲仁(放送大学学長)
井上和也(京都大学名誉教授)
桜井敬子(学習院大学法学部教授)
山本和夫(東京大学教授、同環境安全研究センター所長)
(代理出席委員)
勝又恒久(電気事業連合会会長東京電力(株)取締役社長)
蛭田史郎(石油化学工業協会会長)
藤村宏幸(財)造水促進センター理事長
三村明夫(社)日本鉄鋼連盟会長
奥田真弥(経済産業省 地域経済産業審議員)
前田直登(農林水産省 林野庁長官)
渡辺和足(国土交通省 河川局長)

- 議事:
<報告案件>
(1)前回(平成17年5月24日)河川整備基金運営審議会指摘事項への回答
(2)河川整備基金助成事業 国内で発生した甚大な水害の緊急調査について
(3)河川整備基金基金事業 海外水害緊急調査について
<審議案件>
(1)平成17年度河川整備基金事業(予備費の使用)について
(2)平成18年度河川整備基金助成事業 助成の基準について
(注:「助成の基準」とは募集要項から申請手続きに係る部分を除いたもの)

- 審議結果
(1)平成17年度河川整備基金事業(予備費の使用)について
・第2回世界子ども水フォーラム(2006.第4回世界水フォーラムの一環としてメキシコにて開催予定)への(財)河川環境管理財団の参加について「河川整備基金事業予備費」の使用を承認
(2)平成18年度河川整備基金助成事業 助成の基準について
・18年度河川整備基金助成事業「助成の基準」について、一部を修正の上承認
- 頂いた主なご意見
・当基金助成事業は、法律・経済などの研究者にとっては、現行の助成基準では申請しにくい、改善について検討されたい。
・地球環境の変化が水循環に与える影響も研究対象となるよう明文化されたい。
・環境教育の「教育」という言葉は十分配慮が必要なので留意されたい。「学習」を使う方が良い場合もある。
・当基金助成事業の「国内緊急水害調査への助成」は、大学等の研究機関にとって非常に有効なものになっている。

(担当:研究第1部整備基金班)

平成17年度 河川美化・緑化事業 新規助成の調査研究選定される

河川敷のゴルフ場利用者からの醸出金を原資とする、河川美化・緑化調査研究の平成17年度助成については、「第20回河川美化・緑化調査研究助成審査委員会」において、応募総数2件のなかから次の3件が選定されました。

- 洪水攪乱頻度が礫河原の草木占有面積と樹林化速度に与える影響予測手法の開発
(埼玉大学工学部建設工学科助教授 田中規夫)
元荒川上流部のミクリ群落の生態及び機能と流水に与える影響の調査
(埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅枝 隆)
河川生態系の遺伝的多様性の保全に関する基礎研究
(京都大学大学院理学研究科助教授 渡辺勝敏)

関連情報は、(www.kasen.or.jp/kihu/annai/green.htm)

(担当:企画調整部)

【報告事項3 催しもの他】

河川環境展2005(開催報告)



ブォジィMET(驚異の旅)



ブォジィMET(水のオリンピック)

「自然と調和した、安全で美しい河川環境の実現と理解を目指す」という趣旨のもと、今回で第8回目を迎えた河川環境展2005が開催され、当財団も「『河川環境』の明日を考える」をテーマに以下に示す内容の展覧を行いました。

河川環境展は4日間とも盛況で、当財団ブースも非常に多くの人にご見学をいただき、また環境教育ミュージアムでは、地域の4小学校の生徒の皆さんに参加していただきました。本当にありがとうございました。また次の機会にもぜひ参加してください!

1. 河川環境展2005開催概要

日時:平成17年11月2日(火)~12月2日(金)10時~17時
場所:日本コンベンションセンター(幕張メッセ)第4ホール
主催:河川環境展2005実行委員会(当財団も実行委員会に参加しています)

目的：河川を軸として湖沼までも含めた健全な水資源の確保のための水循環型ネットワークと河川環境に関わる全ての製品・技術・情報・サービス等を一堂に展示し、健康で豊かな生活環境と美しい自然の調和した安全で個性を育む活力ある社会づくりに寄与する。

参加者：約 10,400人（4 日間）

2. 当財団の出展概要

(1) 専用ブース

・当財団の紹介（展示物（パンフレット、冊子等）及びパネル展示により、業務・活動内容等を紹介）

(2) 環境教育ミュージアム（12月1日のみ）

- ・対象者：千葉市内の4小学校の小学生約380名
- ・体験内容：プロジェクトWETのアクティビティを体験し、水について楽しく学ぶ
- ・実施アクティビティ：水の利光ツク 青い惑星、驚異の旅など

（担当：研究第 部）

「無酸素で栄養塩濃度が高い塩水層」の水位上昇の問題と要因、そしてこれに対応するための「塩水遡上実験」の計画について話題提供が行われました。これを受けて、各パネリストからは網走湖との関わりと希望（漁業、農業、地域に住むものとして等）、網走湖の水環境の改善に向けた意見や取り組み姿勢が述べられ、立場を越えて流域住民一体で環境保全に取り組んでいく必要性があることで一致しました。

*開催状況は、網走開発建設部のホームページでも報告されています。
<http://www.ab.hkd.mlit.go.jp/kasen/info/forum/index.html>

（担当：北海道事務所）

網走湖フォーラム2005 （開催報告）

平成17年8月24日、北海道網走市のオホーツク・文化交流センターにおいて、網走湖フォーラム2005「網走湖 水環境の改善に向けて ～流域の取り組みと塩水遡上制御実験～」が開催されました。

網走湖は、身近な自然として手軽に水や緑と親しむことができるとともに、ヤマトシジミやワカサギなどの豊かな恵みをもたらしてくれていますが、近年においては青潮やアオコなどの水質障害がひんぱんに発生し、大きな問題となっています。

このフォーラムは、流域内の関係機関・団体等が連携して各種の対策を進めていくにあたり、関係者や広く一般の方々に網走湖の水環境の現状や今後の対策の進め方を考えていただくために開催され、参加人数は約280名でした。

フォーラムでは、2題の講演とコーディネーター・4名のパネリストによるパネルディスカッション、会場との質疑応答が行われました。

主催：北海道開発局網走開発建設部
共催：網走支庁・網走市・女満別町・美幌町・津別町
後援：西網走漁業協同組合

プログラム：

- ・講演 「網走湖の水理・水質の現状と将来」
山田 正（中央大学理工学部 教授）
- ・講演 「網走湖 湖沼と漁業の特徴」
今田 和史（北海道立水産孵化場 内水面資源部長）
- ・パネルディスカッション
<コーディネーター>
山口 甲（元北海学園大学工学部 教授）
<パネリスト（五十音順）>
川尻 秀一（夢未来網走 代表）
嶋田 忠廣（西網走漁業協同組合 理事）
橋本 光三（北海道指導農業者）
山田 正（中央大学理工学部 教授）

講演では、網走湖の水理・水質の現状と水環境改善の方法、内水面漁業の現状と役割および水環境保全の意義などについてお話いただきました。パネルディスカッションでは、議論に先立って網走開発建

韓国の河川再生事業にふれて



「ソウルの夢と希望」^{チョングジョン}「清溪川」として、2002年7月より在来河川を暗渠化し、上空を都市高速道路として30年余り利用していた河川を再生する一大プロジェクトの着工は始まった。（財）河川環境管理財団大阪研究所は竣工間もない清溪川を視察したので報告します。

訪問先のソウル市清溪川復元推進本部の チェ・ジョンソク チーム長に説明頂き、また現地の案内も丁寧にして頂いた。チェチーム長の説明によると、もともと清溪川は大河「漢河」の支川、中波川に注ぐ漢河の二次支川でソウル市中心部を流れる庶民の生活の川であったが、1949～76年にかけて下水道工事や高架道路工事が行われ、庶民の生活の川としての様相を一変した。高架道路と周辺道路は韓国発展の礎を担い、近年での日交通量は平面・高架道路併せて約1万台にも及んでいた。しかし高架道路の老朽化にともないソウル市では ソウルを人間中心の環境都市へと変貌。ソウル600年の歴史性の回復と文化スペースの創出が必要。市民の安全が脅かされていた。（高架道路の老朽化）立ち後れた都市の開発を活性化させ地域の近郊発展を図る。といった事を目標に掲げ河川再生へと進み、難関が多いなか住民合意形成、交通問題を我が国では想像も付かないスピードと投資力で解決し、昨年9月末に完成した。私たちが訪れた11月初旬には約600万人に及ぶ内外の人々が訪れる一大観光地として賑わっていました。（担当：大阪研究所）

財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。
今後ともよろしくご依頼致します。

理事	長	鈴木 藤一郎
専務理事		小林 正典
常務理事		池田 東雄
常務理事		山本 雅史
理事		花見 忱
研究顧問		吉川 秀夫
研究顧問		芦田 和男
研究顧問		村本 嘉雄
研究顧問		山口 甲
研究顧問		高木 不折
研究顧問		中島 秀雄

河川環境総合研究所長	山本 晃一
技術参与	佐藤 和明
総務部長	葛西 隆
企画調整部長(兼)	小林 正典
研究第1部長	入江 靖
研究第2部長	阿部 徹
研究第3部長	小林 豊
研究第4部長	戸谷 英雄
大阪研究所長(兼)	村本 嘉雄
研究第5部長(大阪研究部長)	持田 亮
子どもの水辺サポートセンター長(兼)	山本 雅史
東京事務所長(兼)	戸谷 英雄
北海道事務所長	金子 雅美
名古屋事務所長	間柄 仁一
大阪事務所長	田村 公一

本部事務所案内図



地下鉄日比谷線「小伝馬町駅」より徒歩0分 都営新宿線「岩本町駅」より徒歩約8分 都営新宿線「馬喰横山駅」より徒歩約7分
JR横須賀・総武線「新日本橋駅」より徒歩約5分 JR横須賀・総武線「馬喰町駅」より徒歩約5分

編集
発行



財団 法人 **河川環境管理財団**

編集事務局 企画調整部 担当：堀江
E-mail: horie-t@kasen.or.jp

本部 〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F, 3F)
<http://www.kasen.or.jp/>
E-mail: info@kasen.or.jp

総務部	TEL 03-5847-8301	FAX 03-5847-8308
企画調整部	TEL 03-5847-8302	FAX 03-5847-8308
研究第一部	TEL 03-5847-8303	FAX 03-5847-8309
研究第二部	TEL 03-5847-8304	FAX 03-5847-8309
研究第三部	TEL 03-5847-8305	FAX 03-5847-8310
研究第四部	TEL 03-5847-8306	FAX 03-5847-8310
東京事務所	TEL 03-5847-8306	FAX 03-5847-8310
サポートセンター	TEL 03-5847-8307	FAX 03-5847-8314

<http://www.mi-zube-support-center.org/>
E-mail: ms@mi-zube-support-center.org

北海道事務所	〒060-0061 札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル) TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953 http://www.kasen.or.jp/hokkaido/ E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp
名古屋事務所	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-3-10 TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627 http://www.kasen.or.jp/nagoya/ E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp
大阪事務所	〒570-0096 大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内) TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095 http://www2.kasen.or.jp/ E-mail: koher@osakaj.kasen.or.jp
大阪研究所	〒540-0008 大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F) TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118 E-mail: info-o@saka.kasen.or.jp